



# 目標4：国内の教育問題を解決

国内にはどんな問題があるか学び、何ができるかを考え、行動に移そう！

## 就学年数

日本の平均就学年数(学校で勉強する年数)は、OECD 加盟国の平均より長い。豊かな教育環境がある日本でどんな問題があるのかを見てみよう！



## 日本の教育問題と課題

### いじめ

2017年、いじめ件数は前年から9万8000件増、**過去最高の32万件**に。つまり、**一日876件**のいじめが起きていることになる。都道府県によっても大きな差があり、京都府と香川県の間では19倍も差がついている。(引用：Yahoo!ニュース)

小学校 **23万7921件**

中学校 **7万1309件**

高校 **1万2874件**

特別支援 **1704件**

### 外国人児童

国内の外国人児童生徒数は**約15万人**(2014)。日本語指導が必要な生徒は**10年間で1.6倍**増えている。各市町村の教育委員会の80%が、**特別指導のための体制を整える必要がある**としている。問題の事例：豚肉を食べることができないイスラム教の子供には、保護者、担任、調理員と連携をとる必要がある。(引用：文部科学省)

### 部活動と働き方

公立中学校の**94%が全員の先生を顧問**にしている。土日は手当が出るが、平日の残業代が出ることはない。土日の部活動のための指導時間は10年前に比べて倍に。教材研究や家庭での時間が持てないという声も上がっている。指導者を先生から地域の人に移す考えも出ているが、地域で指導者を確保するのも難しく、中々現在の状況が変わらない。(引用：毎日新聞、2018年1月)



### 教育方法

発達障害などの子どもが、他の生徒と一緒に生活しながら、特徴に応じて個別の授業を受けることを「**通級指導**」という。2016年には**小・中学生の6.5%**がこの対象に。専門知識を持つ教員の確保や、生徒・保護者の理解を得るのが難しい。小・中学校では7割以上の学校で体制が整っているのに対し、幼稚園と高校では約4割にとどまっている。(2015) (引用：京都新聞、2018年1月、文部科学省)

## 日本の教育の良さ

### 成績

国際的な学力調査 PISA において、**日本人の学力は上位**。2015年度は、数学的リテラシーと科学的リテラシーでOECD(経済協力開発機構)加盟国35か国中1位。読解力では6位。

### PISA(Programme for International Student Assessment)

OECDが3年おきに実施している国際的な学力調査のこと。15歳の数学的リテラシー、科学的リテラシー、読解力を調査する。OECD加盟国以外を含めたランキングでは、シンガポールが全ての分野で1位を取っている。

(引用：Yahoo!ニュース)

## 何が出来る？—アクション例—

まずは、問題を選び、自分の学校や地域での現状を調べてみよう！

**知る**：政府や地域、学校が問題に対してどんな取り組みをしているか調べる など

**行動する**：いじめを見つけたら誰かに相談する、相談に乗ってあげる など

**広める**：地域やオンライン(SNS・ブログ・YouTubeなど)で現状を広める など

**自分でアクションを起こそう！** —自分の目標と計画を立てて行動に移そう—

すぐにできること：

頑張ればできそうなこと：

☆ ☆  
**Let's Action!**